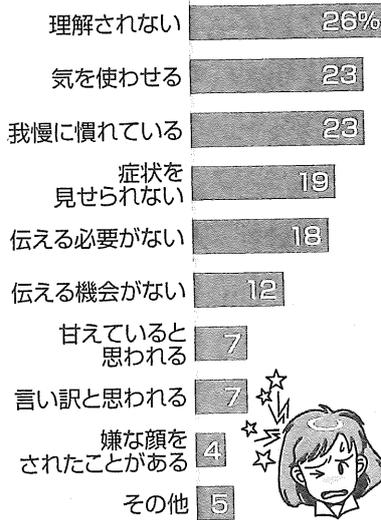


1	所 属	副学長
2	氏 名	平田幸一
3	タイトル	「たかが頭痛」我慢せずに 適切な診断と治療を
4	概 要	新し治療薬も開発され、適切な治療で苦痛は軽減されるとコメント。
5	掲載日・放送日(放送時間)	2022年8月30日(下野新聞) 2022年8月19日～8月31日(他16社)
6	媒体名等	下野新聞他16社

伝わりにくい つらい症状

片頭痛のつらさを伝えない理由



※複数回答。「片頭痛に関する意識調査」より

片頭痛 我慢せず受診を

適切な治療で苦痛軽減も

日本人の10人に1人が持つとされる片頭痛。周りに「たかが頭痛」と受け取られ、患者自身も「仕方ない」と我慢しがち。専門医は適切な診断と治療を勧めている。

片頭痛は10〜50代の活動期の女性に多く、心拍に伴うような拍動性の頭痛が4〜72時間続く神経疾患。名前は異なり頭の両側で起きるとの設問に、患者の75%が

「あつた」と答えたが、患者を見ていた家族は62%。家族ですら状況が正確につかめていなかった。

痛みの程度も、患者は出産に次ぐ2番目に挙げたが、家族、医師とも出産、腎結石、骨折に次ぐ4番目。患者の83%が「症状を我慢して日常生活を続ける」と答えており、これがこの意識差を生んでいるとみられる。

「つらさ」を周囲に積極的に伝えない理由は「理解されないと思うから」が26%でトップ。次いで「気を使わせる」と「我慢に慣れている」が23%で続いた。市販薬で済ませ、医療機関を受診しない患者も多い。日本頭痛学会代表理事の平田幸一(ひらたこういち)独協医大副学長は「新しい治療薬も開発され、適切な治療で苦痛は軽減される」と訴える。専門医は頭痛学会のホームページで検索できるという。